

令和8年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

算数

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	○「データの活用」領域では、データを整理して表やグラフで表す問題で、昨年度より高いポイントを示したが、まだまだ低い値だった。 ○「数と計算」領域では、引き算の文章問題から場面図をかく問題が昨年度より低いポイントだった。 ○「図形」領域では、図形の形の名前や構成要素となる名称の問題が昨年度より低いポイントだった。	○データの種類を整理するときに、数を数え間違えないように、一つ一つチェックしながら整理したり、確認したりすることができ、授業改善の成果が出た。引き続き、丁寧に取り組んでいく。 ○文章問題では、線分図をかけるように指導し、文章内容を把握させる。また、文章問題を解くごとに、線分図と立式を合わせて理解できるようにする。 ○立体図形を見せたり、立体の面を写し取ったりする活動を通して、図形の形の名前や、構成要素の名称や位置を理解させる。	
4年	○全領域の正答率は7割を超え、今年度も高い値を示した。特に加減演算では小数、分数も含めて9割という高い値を示したが、3桁×2桁のかけ算で、6割の値だった。 ○「数と計算」の領域では、加減法の文章問題を図に表したり、未知数を□として、立式したりする問題で、昨年度より若干ポイントを上げたが、大きく平均を下回った。 ○「図形」領域では、円を利用した正三角形を作図する問題で、全問題の中で一番低い値を示した。	○3桁×2桁のかけ算では、計算の順序やかけ算九九、繰り上がりのたし算をしっかりとできるようにする必要がある。それを、繰り返し取り組ませることで定着させていく。 ○文章問題では、線分図をかけるように指導し、文章内容を把握させる。また、□を使った式では、順思考の文脈で場面を解釈し、立式を考えさせる。□を使った式に表すことにより、式で場面を表せることの良さに触れさせる。 ○円（円は半径の長さが同じ）や二等辺三角形（2つ辺の長さが同じ）、正三角形（3つの辺の長さが同じ）の特徴を知り、半径と辺の関係を理解させるために、円を使って二等辺三角形や正三角形を作図する活動を多く取り入れる。	

学 年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
5 年	○「数と計算」の領域では、3位数÷3位数のあまりのある計算や、小数のわり算問題で、昨年度より大きく値が下がった。 ○「図形」領域では、面積を求める問題で、長方形の求積は正答率が高いが、複合図形となると正答率が低かった。また、ひし形の図形作図も低かった。 ○「データの活用」領域では、グラフから読み取る問題で、昨年度より大きく値が下がった。	○わる数が2位数や3位数のわり算では、商の見当付けが必要である。まず、2、3位数×1位数のかけ算をしっかりと定着させ、繰り下がりのひき算をしっかりとできるようにし、繰り返し取り組ませることで定着させていく。また、小数の概念を理解させるとともに、小数が整数と同じ仕組みで計算できることを理解させる。特に、3桁÷2桁のわり算を正しく計算できていない児童が多いので、繰り返し学習していく。 ○複合図形の求積では、それぞれの長方形に分けたり、大きな長方形の面積から欠けている面積を引いたりして求めることができる。その多様な方法を、言葉や式、図を用いて説明する活動を取り入れながら理解させていく。ひし形の図形の作図では、四角形の特徴をしっかりと理解させるとともに、定規や分度器、コンパス等を使って正しく作図できるように、繰り返し学習していく。 ○折れ線グラフの特徴（1目盛りの値、傾き、最低・最高等）を正しく読み取れるようにする。また、統計的な問題解決のよさに気づき、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする態度を身に付けさせていく。	
6 年	○「数と計算」領域では、小数同士のかけ算やわり算の計算問題で、昨年度より低いポイントだった。 ○「変化と関係」領域では、割合、百分率を求める問題や、人口密度を求める問題で、昨年度より高いポイントを示したが、他の問題より低い値となった。 ○「図形」領域では、複合図形の体積を求める問題で、低いポイントだった。	○3位数同士のかけ算やわり算の筆算の仕方、特に0を含む数の計算の仕方を定着させるために、3位数×1位数、2位数の計算や、3位数÷1位数、2位数の計算の仕方をしっかりと理解させる。また、小数点を付け忘れたり、付ける場所を間違えていたりするので、その考え方も丁寧に復習していく。 ○割合については、小数倍の意味を理解させるとともに、割合や百分率等、基準量とする大きさを1や100とみる見方の違いにも着目させる。また、人口密度については、単位量あたりの数量を理解させるために、公式や形式だけを覚えるのではなく、2つの数量がどのように伴って関わっているかを丁寧に学習していく必要がある。そのために、線分図や表、グラフの読み取りを定着させ、正しく立式させていく。 ○複合図形の求積では、それぞれの直方体に分けたり、大きな直方体の体積から欠けている体積を引いたりして求めることができる。その多様な方法を、言葉や式、図を用いて説明する活動を取り入れながら理解させていく。	